

信号待ちで、駅のホームで、携帯電話を操作する人の姿は、すっかり街になじむようになった。いまだ若者の機器というイメージがあるにはあるが、軽やかに使いこなし、豊かな生活をエンジョイするシニア世代「アクティブ・エイジ」が増えている。

いけばな作家の中田和子 だかろ」と勧められた。さん(56)が携帯電話を使うようになったのは、約四年前。とあるイベントの録音として花を生けた時に、主催者のスタッフから「便利



「いけばな教室の生徒の間でも携帯電話は必需品になっています」と中田和子さん

なりました」と誘った。単月流の本部長として生徒に教えたり、個展を開いたり、依頼を受けて生けたりと、当時から外に出ることが多かった。それが携帯電話のおかげで、どこでも仕事の打ち合わせが可能になった。

持っようになる前は、「そんなに急いで連絡を取る必要があるのだろうか」と懐疑的だった。しかし、

「作品に使いたい花の入荷が間に合いません。今すぐ連絡をもらえ」と、今は重宝している。川崎市内の自宅や品川区の教室では、十代から七十代までの約三十人の生徒を招く。今年目標は、生徒を百人にする。また、パソコンにも挑戦したいと目を輝かす。その折々に、携帯電話が有能な、助手、

を誘ってくださることは間違いなさそうだ。

中田さんのように「携帯電話を活用したい」「画面のモードを使ってみたい」そんな人たちのために、関東甲信越のドコモショップ二三五店舗では無料の「電話教室」を開催している。少しでも興味のある人は一度、足を運んでみてはいかがだろうか。